

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都港区麻布台一丁目3-1

為替週間展望＝ドル円は底堅いが上値を伸ばしにくい動きか

〔8月10日からの1週間の展望〕

週間高低（カッコ内は日）			8月3日～8月7日		
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	157.28	158.57(7)	155.23(3)	158.36	+0.96
ユーロ・ドル	1.1527	1.1560(6)	1.1500(3)	1.1519	-0.0008
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終 値	前週末比		終 値	前週末比
日経平均株価	65,606.71	+1244.69	日本10年債利回り	2.806	+0.001
ダウ平均株価	53,885.10	+1400.07	米10年債利回り	4.678	-0.057
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 10日 日本6月経常収支
日銀金融政策決定会合議事要旨（7月30～31日分）
- 11日 豪中銀（RBA）政策金利
米7月中古住宅販売件数
- 12日 独7月消費者物価指数
米7月消費者物価指数
- 13日 英第2四半期GDP速報値、英6月貿易収支
英6月鉱工業生産指数、英6月製造業生産指数
スイス7月生産者輸入価格
ユーロ圏6月鉱工業生産指数
米新規失業保険申請件数、米7月生産者物価指数
- 14日 ユーロ圏第2四半期GDP改定値
ユーロ圏6月貿易収支
カナダ6月製造業出荷、カナダ6月卸売売上高
米7月小売売上高
米8月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】FRBは原油高によるインフレ圧力の高まりに対して、利上げで対応するとみられる。これにより日米金利差は高止まりしやすく、ドル円の下値を支える見通し。一方で、政府・日銀による為替介入への警戒感から、上昇局面では上値を抑えられやすいと考えられる。こうした中、ドル円は今後も荒い値動きが続くとした。

【介入を受けてドル円は急落するも、その後は戻りを見せる】

8月3日、片山財務相は、過度な円安を食い止めるため、日米両政府が7月31日に為替介入を実施したとの共同声明を発表した。同氏は、過度な相場変動に対しては今後もさらなる協調介入の実施をちゅうちょしない姿勢を示した。

こうした追加介入も辞さない姿勢が市場の警戒感を誘っており、ドル円の上値を抑える主な要因となっている。しかし、米国経済の堅調さや日米金利差に着目した「円キャリー取引」がドル高円安の背景にあり、ドル円は下値で買いが入りやすい地合いが続いている。

複数回にわたる介入とみられる動きにより、ドル円は8月3日の東京市場で一時155.20近辺までドル安円高が進んだ。ただ、ドル買い円売り意欲は根強く、その後は戻り歩調で推移している。6日の海外市場でドル円は158.55まで上値を伸ばした。ホルムズ海峡の開放期待が後退して、原油高やドル高の流れが強まった。さらに英FT紙が「ウォーシュFRB議長が物価などの状況によって早期に政策金利を引き上げ

る用意がある」と報じたことなどがドル買いを誘った。

【米消費者物価指数などに注目】

8月10日の週に予定される日米の経済指標やイベントには、10日の日本6月経常収支、11日の米7月中古住宅販売件数、12日の米7月消費者物価指数、13日の米新規失業保険申請件数、米7月生産者物価指数、14日の米7月小売売上高、米8月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

主な経済指標の事前予想と前回値は次の通り。12日の米消費者物価指数（CPI）は、総合の事前予想が前月比+0.1%（前回-0.4%）、前年比+3.4%（前回+3.5%）となっている。また、コア指数の予想は前月比+0.2%（前は変わらず）、前年比+2.5%（前回+2.6%）となっている。

総合は前月比が前回から伸びが加速する一方で、前年比は伸びが減速する見通し。コア指数は前月比の伸びが加速する一方で、前年比は伸びが鈍化する見通しとなっている。原油価格は再び下げに転じたものの、7月に67ドル台から93ドル台まで一時上昇しており、その影響が警戒される。市場予想から上振れするとドル買いに、下振れするとドル売りに傾きやすくなると見込まれる。

14日の米小売売上高の事前予想は前月比+0.2%（前回+0.2%）、自動車を除くコア売上高は前月比+0.2%（前回-0.2%）となっている。総合は前回から横ばい、コアは前回から加速する見通しであり、市場予想を上回るようなら、ドル買いに傾き、下回るとドル売りに振れるとみられる。

米国の経済指標は一部に若干の減速は見られるもののおおむね良好であり、下値を支える要因となる。原油価格が落ち着きつつあるものの、実際のインフレ警戒感の後退にはまだ時間がかかる見通し。また、日米の金利差は大きいままであり、ドル円の下値は堅いとみられる。日銀が積極的な利上げに動くかについては不透明感が残る。一方で、介入警戒感が常に上値を抑える要因となるため、底堅い推移を辿りつつも上値は限定的となりそうだ。目先の予想レンジは153.00～160.50円。

【ユーロドルの上昇は限定的か】

ドル円が日米協調介入により、3日に155円台前半までドル安円高が進んだ。対円でのドル売りなどを受けて、ユーロドルは1.15台を回復するなど堅調な動きを見せた。ただ、ドル円の急落に歩調を合わせてユーロ円も急落したことで、ユーロドルの上昇は限定的なものにとどまった。

今後も介入警戒感からドル円が上値を抑えられたり、介入とみられる動きでドル円が下落した場合は、ユーロ円も歩調を合わせて下落する可能性が高い。このため、対円でのドル安を受けたユーロドルの上昇は限定的となる見通し。こうした中、ユーロドルは底堅いながらも大きく上値を伸ばせない展開が続くとみられる。目先の予想レンジは1.1400～1.1650ドル。

ポンドドルも対円でのドル売りの影響から1.35ドル近辺まで上昇したものの、その後は伸び悩みを見せている。13日には英4-6月期GDP速報値や英6月貿易収支、英6月鉱工業生産指数などの発表が予定されており、良好な結果が示されるようであれば、ポンドドルは堅調な推移が継続すると見込まれる。目先の予想レンジは1.350～1.3600ドル。

今後の日米以外の経済指標やイベントとしては、11日の豪中銀（RBA）政策金利、12日の独7月消費者物価指数、13日の英第2四半期GDP速報値、英6月貿易収支、英6月鉱工業生産指数、英6月製造業生産指数、スイス7月生産者輸入価格、ユーロ圏6月鉱工業生産指数、14日のユーロ圏第2四半期GDP改定値、ユーロ圏6月貿易収支などの発表が予定されている。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。